

【2022年度（公財）京都YWCAの概要】

■YWCAの基盤と目的

基盤：本会はキリスト教の価値観をもつ女性たちによって設立され、全能の神、イエス・キリスト、聖霊への信仰を基盤とする。

目的：この法人は、キリスト教の基盤に立ち、女性と青少年の力を育て、すべての人々にとっての正義・平和・人間の尊厳・自由・持続可能な環境の実現に寄与することを目的とする。

■日本YWCA 第33総会期(2020～2023年度)

・ビジョン：女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会

・ミッション：若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

・バリュー

1. キリスト教基盤：すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣(なら)って行動します。

2. 平和・環境：アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3. 人権：人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくりまします。

4. セーフスペース：会員(ボランティア)が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

■京都YWCA 私たちが目指すもの(2022年度)

1. 女性や子どもの人権が守られる社会
2. あらゆる暴力を否定する社会
3. 多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々と共に生きる社会
4. 「核」のない持続可能な地球環境

■会勢

1. 会員・会友(2023年3月末)

	本年度	前年度比
成人会員	126	-9
年少会員	0	±0
総数	135	-9

	本年度	前年度比
成人会友	15	-3
年少会友	0	±0
総数	15	-3

賛助員 38名



■理事会・評議員会・運営委員会・各部委員会

1. 理事会 年7回開催

理事：安藤いづみ（～2022年6月まで）、井上依子、上村愈巳子、岡佑里子、

齋藤佳津子（2022年6月～）篠田茜、平野富希、山本知恵

以上7名

監事：井上勇一、有田孝子

以上2名

2. 評議員会 定例1回

浅野献一、小栗弘美、梶川雅子、神門佐千子、一色光世、弘中奈都子、藤尾実、

福嶋由里子、宮武美知子、別所加恵

以上10名

3. ミッション推進活動運営委員会(2022年度 運営委員会会長 別所加恵)

年11回開催

青野美佐江、赤尾陽子、安藤いづみ、イエニックふたみ、大手理絵、篠田あかね、

弘中奈都子、福嶋由里子、ヘイナ啓子、別所加恵、三木みや子

以上11名

4. 各部委員会(2022年度責任者)

【ミッション推進活動関係】

* 平和・環境活動委員会(青野美佐江)

在籍7名

年9回開催

* 親・子育て支援活動委員会(赤尾陽子)

在籍10名

年11回開催

* 活動グループ連絡会(ヘイナ啓子)

在籍7グループ

年3回開催

* 多文化共生委員会(ヘイナ啓子)

在籍10名

年5回開催

* ファンドレイジング委員会(イエニックふたみ)

在籍4名

年4回開催

* ふれあいの居場所事業部委員会(篠田あかね)

在籍11名

年4回開催

* ユース委員会(福嶋由里子)

在籍8名

年3回開催

* 100周年記念実行委員会(弘中奈都子)

在籍11名

年5回開催

【理事会関係】

* 財務部(上村愈巳子)

在籍13名

年5回開催

* 人事部(安藤いづみ→上村愈巳子)

在籍6名

年4回開催

* 広報部(篠田茜)

在籍6名

年6回開催

* 会館部(上村愈巳子)

在籍8名

年4回開催

* サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」委員会(篠田茜)

在籍12名

年4回開催

* 自立援助ホーム「カルーナ」委員会(平野富希)

在籍16名

年6回開催

* 保育園事業部(安藤いづみ→平野富希)

在籍10名

年5回開催

■在職者(2022年度 フルタイム職員のみ)

饗庭純子、荒川幸子、井上依子、岩佐恭子、大隅八恵子、岡佑里子、木下和江、白土友子、張善花、

中西紫、中村仁美、御前麻里、西口裕侑(5月末まで)、古川由布子、森恵子、三上彩、八頭司めぐみ、

湯川沙央理、山本知恵、横川宏美

<受付アルバイト> 大森淑子、ソン・ヒョンジン(7月末まで)

2022 年度を振り返って

代表理事 上村 愈巳子

設立 100 周年を 1 年後に控えた 2022 年度は、京都 YWCA の歴史を振り返り、先人たちの働きに思いを寄せ、その精神を次の世代に手渡していく準備を進めた 1 年でした。

昨年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻から始まった戦争は今なお続いています。戦争のない世界を願いつつ、コロナ禍の下でオンラインと来館を組み合わせ合わせたハイブリッド形式の会議を積極的に取り入れて、事業や活動を続けました。

女性と子どものエンパワメントと多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり事業

1. 女性と子どものエンパワメント事業

●女性と子どものエンパワメント

保育園事業部委員会と親・子育て支援活動委員会との協働が進んだ 1 年でした。保育園や地域社会に向けて親子ライブラリー、リズム遊びや「あきまつり」などを実施すると同時に、対象を多文化ルーツの子どもへも広げました。小学生を対象とした長期休み中のプログラム「ガジュマルの樹」を 3 年ぶりに開催しました。

多文化ルーツの子どもに向けては学習支援および社会経験プログラムを例年通りに実施しています。

●若い女性のエンパワメント

概ね 15 歳から 20 歳の社会的養護が必要な女性を対象にした自立援助ホーム「カルーナ」は、開所から 8 年を迎えました。京都府若者等就職支援推進事業の「認定基礎的就職支援事業者」である当団体で、就労体験の場を提供しています。

福祉医療機構 WAM の助成を得て、退所者ケアの場として、夕食を提供する若者のための居場所「Y ここ Kitchen」を 6 月より毎週 4 回開いています。年度末には利用者の増加に対応するため、自立援助ホームの定員を 7 名に増やしました。

ユース委員会では、主に活動をオンライン上で展開し、SNS やボランティア募集サイトを通してメンバーを募り、各活動の報告を Instagram に載せました。また、全国の中高 YWCA（中学校・高等学校 YWCA クラブ）カンファレンスや YWCA フェスタにおいて分科会を担当するなど、積極的な役割を果たしました。

●シニア女性のエンパワメント

京都 YWCA のサービス付き高齢者向け住宅「サラーム」の入居者に、多世代間の交流や社会参加の機会を提供し、心豊かな生活の実現を支援しています。

ふれあいの「居場所」事業部委員会主催のフレイル予防プログラム「いきいきタイム」をはじめとしたプログラムにサラーム居住者の多くが参加されました。また、その他の YWCA が主催するプログラムやイベントにも積極的に参加されています。多くの方が「Y ここ Kitchen」の夕食を利用され、若者、留学生、多文化ルーツの子どもたちと出会う機会にもなっています。

2. 多文化共生社会に向けて——外国籍市民のエンパワメント事業

外国籍の人々と共に生きる社会を目指して、日本語教室「洛楽」と多言語相談活動（APT: Asian People Together）を行っています。

●にほんご教室「洛楽」

さまざまな国と地域からの受講生が、ハイブリッドの学習形態を取り入れるなどして学習しました。あじさい保育園への多文化共生保育のための講師派遣を担当し、日本語を学ぶ受講生がそこでの講師を務めました。子育て中の受講生のための保育も3年ぶりに復活しました。日本語講師と受講生間の交流の促進にも努めました。

●多言語相談活動「APT」

1991年より30年以上にわたって、外国籍住民を主な対象とした電話相談を週2回定期的に行っています。ボランティア相談員がケースに応じて、弁護士やケースワーカーとの協働、行政機関等への同行支援、通訳・翻訳ボランティアのコーディネートを行っています。本年は相談活動のメンバーを積極的に募集し、相談員の研修にも力を入れました。京都市の子ども若者はぐくみ局からの通訳依頼に応じて乳幼児健診の通訳を派遣しました。

●女子留学生寮「あじさい寮」居住者支援

前年度来日した5名が8月に帰国しましたが、8月の大文字送り火を楽しむ集まりに数名の留学生が参加され、良い思い出になったと思われます。9月には14名が3月には11名が入寮し、帰国した人もありながら、ほぼ満室となりました。留学生を支援するボランティアが送別会・歓迎会を実施しました。

3. ふれあいの居場所事業およびミッション推進ボランティア活動

●ふれあいの居場所事業

本年度のふれあいの居場所事業は、ランチ提供に加えていくつかの居場所プログラムを毎月定期的に行いました。また、お菓子チーム、若者就労支援チーム、かふえの今後を考える「かふえビジョンチーム」がそれぞれのテーマに取り組みました。YWCAの居場所事業の将来像（ビジョン）をさまざまなカフェ運営の手法を学びながら、持続可能な居場所事業の実現につなげていく予定です。一方、当面の担い手不足を解決しようとランチ委託者の募集も続けています。

●ミッション推進ボランティア活動

ミッション推進活動部門の運営委員会では、オンラインを駆使しながら研修に力を入れ、情報共有のデジタル化にも取り組みました。日本YWCAの主催する組織ガバナンスに関する研修にも参加し、新たな担い手を育成するプロジェクトチームを立ち上げることを決めました。また福岡YWCA、横浜YWCAとは「食」と「居場所」でつながる協働作業への第一歩を踏み出しました。平和・環境活動委員会では本土復帰50周年を迎えた沖縄の声を聞くプログラムや、外国人に対する差別問題を描いた映画の上映などを行いました。

●100周年記念実行委員会の活動

「京都YWCA 100年の歴史を知る会」を5回シリーズで実施しましたが、先人たちの足跡を学び、女性のエンパワメントの歴史を辿ることができました。100周年記念誌の制作を進めており、記念誌を通じて先人たちの精神と働きを次世代に伝えていきたいと考えていきます。

W・M・ヴォーリズの建築事務所が設計した別館サマリア館は現在実施している居場所事業の大切な場ですが、この建物に関する100周年記念講演会を実施しました。現在100周年記念募金（目標1千万）を実施しており、ご寄付は次世代育成、保育環境の向上、サマリア館補修、歴史の継承に充てられます。その一環として7月より3カ月間サマリア館の補修に充てるためのクラウドファンディングに挑み、多くの方からご支援いただきました。

保育園事業

あじさい保育園は開園3年目に入り、コロナ禍で一部休園を余儀なくされたこともありましたが、子どもたちの成長を感じる1年でした。長く親子支援活動しているボランティアや理事も参加する保育園事業部委員会が、課題を共有しつつ、保育園運営をサポートしています。職員間の連携が進み、子ども一人ひとりを大切にするあじさい保育園らしい保育の実現に取り組んでいます。YWCAの長年の活動の経験が保育内容にも徐々に活かされつつあります。

地域の子育て支援ステーションは、コロナ禍もあって参加者が集まりにくい状況でしたが、今後は広報に力を入れて、ニーズに合う企画を試み、地域の子育て支援の拠点としての役割を果たしていきたいと思えます。

その他の事業

1. サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」

本住宅は、人々と出会い、交流するさまざまな機会を高齢女性に提供する住宅として、2013年に国土交通省の「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業〈先導的事业〉」に選定されたものです。今年度は5月より8室が満室となりました。入居者に見守りと生活相談サービスを提供して、その日常生活を支援しています。今年度も成年後見制度勉強会やの交流のプログラムを実施しました。

2. 会館事業（貸室・会館の維持管理）

利用者に感染防止ルールを守っていただきながら、会館内の部屋を地域のさまざまな活動のためのレンタルスペースとして利用していただいています。本年は館内の経年劣化した空調機の交換を進めました。光熱費の急激な高騰があり、会館利用者に節電を呼びかけています。また、ヴォーリズ建築のサマリア館の補修について建築士と相談し、2023年度中に補修工事に取り組む予定です。サマリア館は京都市の「京都を彩る建物や庭園」に選定されました。

今後の展望

●「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の推進

あじさい保育園は4年目を迎え、引き続き京都YWCAらしい保育を進めつつ、地域の子育て支援の拠点としての役割を積極的に進めていきます。

生きづらさを抱える子どもや若者の居場所「YここKitchen」を運営しながら、京都YWCAに集う多様な人々を巻き込んだコミュニティづくりをさらに推進していく予定です。

●サマリア館補修の実現

7月より実施したクラウドファンディングの募金の趣旨であったサマリア館補修を2023年度内に実施する予定です。

●100周年記念募金と記念行事の実施

募金期間の最終年として、さまざまな方法で多くの方々に呼びかけて目標額（1千万）の達成に努めていきます。また、記念プログラムとして、100周年誌発行、式典（9月23日）、旅行、シンポジウム（1月27日）を予定しています。シンポジウムでは、20代でフラワー事業を起業され社会問題に向き合う活動に取り組んでおられる福寿満希さんを講師に招いて、次の100年に向けた京都YWCAの進むべき道を共に考える機会としたいと思います。

2023年度も皆さまのご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

事業報告

I. 多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりに向けた女性と子どものエンパワメント事業

(1) 子どものエンパワメント事業

① 多文化共生をテーマにした多文化共育プログラム

外国にルーツを持つ方を講師に迎え、その国や地域の文化を、遊びや音楽などを通して伝えてもらい、子どもたちが自然に多くの文化と触れ合う機会を提供する保育プログラム。希望の家カトリック保育園（ベトナム）とあじさい保育園（中国内モンゴル）で実施した。



中国語で『はらぺこあおむし』を読み聞かせる

実施日	プログラム内容	講師
5/26、7/7、9/1、9/8、10/10、10/27、 11/10、11/27、12/17、12/22	希望の家カトリック保育園： ベトナム紹介および子どもたちの 昔話、歌、遊び、ダンスなどを紹介	NGUYEN TRUC QUYNH ANH
9/28、11/30、1/25	あじさい保育園： 中国内モンゴル衣服・相撲、食文化・ 馬頭琴、お正月の紹介	珊瑚（サンナ）

② 多文化ルーツの子ども支援

定期的に学習支援や、親子ライブラリーによる絵本の読み語りをを行い、教科別に講師による個別学習支援もあわせて実施した。加えてお出かけプログラムを計画し、美術館訪問や、大阪、奈良への観光などを通して社会体験を促した。また、夏の One Camp やクリスマス会なども企画し、楽しみながら相互のコミュニケーションをはかれるよう、工夫したイベントを実施した。

■社会経験プログラム（参加者数）

内容	日程	子ども	保護者	支援者
お出かけプログラム@京セラ美術館「兵馬俑」	5/5	4	1	8(通訳1)
神戸 YMCA One Camp 参加	8/3~7	8	1	2
親子お出かけプログラム@奈良	10/10	7	5	8
多文化経験お出かけプログラム@京都市国際交流協会	11/3	4	—	3
多文化親子のクリスマス会	12/25	9	5	16
お出かけプログラム@大阪城	12/26	7	—	4

■学習支援プログラム（延べ人数）

内容	回数	子ども	保護者	支援者
毎週月曜日 16:00～19:00	39	208	6	184
毎週金曜日 15:00～18:00	16	6	7	21
長期休み中の終日プログラム	7	44	1	30
個別学習支援	146	146	8	146



多文化ルーツの親子とのクリスマス会 (2022/12/25)

③ ガジュマルの樹

コロナ禍で休止を余儀なくされていた小学生向けのデイキャンププログラム「ガジュマルの樹」を、3年ぶりに夏、冬、春の長期休みに開催した。科学実験や習字アート、パンや椅子づくりなど、家庭では体験できない魅力的なプログラムを提供して、あじさい保育園の卒園児や兄弟、親と子のリズムあそびプログラムの元受講生、YWCA 会員の家族など、回を重ねるごとに参加者が増え、盛況であった。

日時	プログラム名	講師	参加人数
8/19	「ビッグアート～YWCA に海を作ろう」 「不思議がいっぱい科学実験」	別所加恵ほか	9
12/27	「お習字アート」「京都府警、京都府庁見学」	坪野えり子	11
3/28	「パン作り」「椅子づくり」	伊藤千佳子 安藤隆一郎	16



夏のガジュマルの樹「不思議がいっぱい科学実験」



春のガジュマルの樹「パン作り」

(2) 女性のエンパワメント事業

① 移住女性一人親支援活動

日本語学習支援事業「洛楽」の講師の協力により、移住女性に日本語学習支援を行い、日本での生活がより快適になるようにプログラムを実施した。コロナ禍で生活がより厳しくなった多くの一人親家庭に、食品、飲料、日用品、衛生用品などの配達支援を行った。

京都 YWCA にあるカフェ「うららかふえ」でのランチ作りを希望する人には自国の料理を作ってもらい、調理、料理の提供、片付けを含むサポートを行った。(延べ回数および延べ人数)

内容	回数	参加者	講師	備考
日本語支援	149	225(14)	149(6)	対面・オンライン
保育サポート	6	6	8	対面

② 親・子育て支援活動

大人と子どもが共に育ち、日々を楽しく安心して過ごせる場を提供することを目指して、さまざまなプログラムを実施した。

あじさい保育園では、ピアノに合わせて体を動かす「リズムあそび」や、読み語りをする「親子ライブラリー」を定例プログラムとして行っており、園児の心身の成長をサポートしている。これらを地域子育てステーションのプログラムとしても行い、未就園児やその保護者が安心して遊べる居場所となった。また、多文化ルーツを持つ子どもたちに向けても絵本の読み語りを始め、日本語の習得を兼ねた楽しいひとときとなっている。

「あきまつり」では、読み語りをする「絵本の部屋」や打楽器のワークショップなど保育園で行っているプログラムに加え、ビッグアートや工作、防災のお話、惣菜やリサイクル子供服の販売、ピアノトリオのコンサート「聴くだけじゃない音楽会」など、大人も楽しめる工夫を凝らした。保育園児や卒園児、保護者のみならず、京都 YWCA の会館に住む方、地域の方、ボランティアなど、90 名を超える参加者が交わり一緒に楽しむ、特別な一日となった。

子育て中の親が共に集い、エンパワメントする場である「子育ておはなしかい」を行い、発達に課題を持つ子を育てている親のために「おやのたんわしつ」を開いて傾聴とリラクスの場を持った。

食育プログラムとして「マクロビオティック講座」を、また保育園児が園庭の夏みかんを収穫し、酸っぱさを体験したり、ジャムにしておやつに食べるという新たな試みをした。園児、保育者、プログラムを企画した YWCA 会員にも好評で、今後も定例で行うことが決まっている。



あきまつり「絵本の部屋」



あきまつり「聴くだけじゃない音楽会」

■実施プログラム

	実施日	プログラム名	講師（敬称略）	対象者/人数
定期開催	毎週月曜日	保育園リズムあそび	赤尾陽子	0-2 歳園児
	毎週金曜日	保育園リズムあそび	有田佳子	3-5 歳園児
	月 2 回 第 1・3 木曜日	保育園絵本読み語り	親子ライブラリー	2-5 歳園児
	月 1 回第 3 木曜日	地域向け親と子のリズムあそび	赤尾陽子	各回 1-3 名
	月 1 回第 3 木曜日	地域向け絵本ライブラリー	親子ライブラリー	各回 1-3 名
	月 1 回第 3 月曜日	多文化ルーツの子どもへの 絵本読み語り	親子ライブラリー	各回 2-6 名
	月 1 回第 1 木曜日	絵本かふえ	親子ライブラリー	各回 17-30 名
	毎週金曜日	えいごであそぼう	ドナルド・レイノルズ	4 名受講中
不定期開催	9/17	子育ておはなしかい①	室紀子	9 名
	12/10	子育ておはなしかい②	室紀子	7 名(保育 3 名)
	10/22	マクロビオティック講座第 1 回	笹浪泉	5 名
	10/29	マクロビオティック講座第 2 回	笹浪泉	6 名
	11/6	あきまつり	ロビン・ロイド 内藤ルミ子 枚田真紀子	80 名
	12/10	クリスマス集会	須賀工牧師	54 名
	2/10	おやのだんわしつ	室紀子	6 名
	3/7	園庭の夏みかん食育プログラム	ロビーショップチーム	29 名
他団体主催	4/17	中央図書館こどもの図書の日 お楽しみ会	親子ライブラリー	12 名
	7/26	トーハンこどもの本 ブックフェア	親子ライブラリー	20 名
	10/1	芦生 山の家 お話会	親子ライブラリー	20 名

③ 自立援助ホーム「カルーナ」

社会的養護を必要とする若い女性に安心・安全な生活の場を提供し、自立を支援する自立援助ホーム「カルーナ」は設立8年目を迎えた。今年度も15歳から21歳までの女性が入居し、児童相談所からの一時保護委託を受けて利用者が定員を超える期間もあり、2023年3月に定員を6名から7名に増員した。新型コロナウイルス感染症の影響は続いたが、感染予防対策を行いクラスター感染など深刻な事態を回避できた。

利用者は高校生（全日制、通信制、定時制）、短大生、大学生など学生が多く、学習支援や進路相談などのサポートが必要とされた。カルーナ教育奨励基金も2名が利用し、塾を活用して学習習慣を身につけて福祉専門学校に合格し、新年度から一人暮らしを始めた人もいる。

また、カルーナの利用者や退所者などの仕事に就くことが難しい若者を支援するため、京都YWCAは京都府若者等就職支援推進事業所に登録している。退所後、経済的にも自立できるように、この制度を利用して京都YWCAでの就労体験をしたり、アルバイトや金銭管理などの支援も個々に対応して行った。利用者の心身の健康を図るため、今年度もリラックスタイム、美bodyワーク、カウンセリングなどのプログラムを定期的実施し、利用者のエンパワメントに努めた。

1月には、会場参加とオンラインのハイブリッドで公開講座を関西セミナーハウスと共催し、コロナ禍における子どもの権利侵害について長瀬正子さんの講演を聴いた。また、カルーナニュースの発行や、オンライン寄付サイト（コングラント）の開設など広報活動にも努め、後援会費や寄付によって、教育奨励基金を授与したほか、一人暮らしに必要な物品などを準備することができた。

次年度は、援助ホームの定員が7名に増えたため、物理的にも人的資源もパワーアップし、今年度本格始動したアフターケアを充実させることを目標としている。



美bodyを目指してエクササイズ

	実施日	プログラム名	講師・スタッフ	参加人数
自律プログラム	月1回	リラックスタイム	辻野恵子・宮川知子	延べ41
	6回	カウンセリング	竹之下雅代	4
	月2~4回	美bodyワーク	木村こずえ	延べ140
	第1,3火曜 第3土曜	カルーナかふえ	山本知恵 三上彩	
	1/14	新年会&ホームカミング		9
関西セミナーハウス共催	1/28	公開講座「生きづらさの声を聴く」	長瀬正子 (佛教学大学准教授)	38
神戸YMCA主催	8/3~7	余島キャンプ 「One Camp」		入居者2 退所者4
日本YWCA主催	11/26, 27	YWCA フェスタ		退所者2

④若い女性のエンパワメント

■ユースエンパワメント

昨年度の活動の経験を生かし、今年度も、ユースが安心して関心事項を語ることができるオンライン交流会（「よるカフェ」）、世界YWCAがユースエンパワメントを目的に作成した『若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ（Rise Up）・ガイド』および「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」「心の健康に関する若い女性のアドボカシー・ツールキット『My Body My Mind』」の内容に基づく中高生を対象としたワークショップ、自立支援ホームカールナ利用者・元利用者との交流会等を企画実施した。また、学校を対象としたワークショップについて、YWCAクラブがない公立の学校においてもワークショップを実施した。その他、若年女性のための居場所「つながるスペース」（主催：京都市、企画・運営：公益財団法人京都市男女共同参画推進協会）において、ユース委員会メンバーがサポーターとして参加し、グループファシリテーターを担った。各活動において、昨年度からのメンバーに加え、SNSやボランティア募集サイトを通して集まった新規メンバーが、それぞれの関心事項やスケジュールに応じて参加した。なお、委員会の各活動は主にオンライン上で展開した。また、各活動の報告をInstagramに掲載した。

(1) 夜かふえ

実施日	プログラム名	参加人数
7/9（土）	好きなものから感じること	7
9/12（月）	好きで続けていること、ずっと続けて今に影響していること	7
10/10（月）	特別支援スポーツプロジェクト	5
11/23（水）	アンコンシャスバイアス	7
1/21（土）	戦争責任論の再検討：暴力を批判する論理構築のために	4

(2) Rise-up リーダーシップワークショップ

実施日	プログラム名	参加人数
7/27（水）	同志社女子・平安女学院中高 YWCA 自己紹介	13
8/3（水）	中高 YWCA 全国カンファレンス	17
10/14（金）	大阪府立富田林高等学校（1回目）	12
10/25（火）	同志社女子中学校・高等学校（1回目）	9
10/28（金）	同志社女子中学校・高等学校（2回目）	6

11/1 (火)	同志社女子中学校・高等学校 (3回目)	7
11/4 (金)	平安女学院中学校・高等学校 (1回目)	5
11/11 (金)	平安女学院中学校・高等学校 (2回目)	6
11/26 (土)	YWCA フェスタ分科会 1 #MybodyMymind	9
11/26 (土)	YWCA フェスタ分科会 2 京都 YWCA ユース委員会の取組み	8
1/13 (金)	大阪府立富田林高等学校 (2回目)	10
2/3 (金)	大阪府立富田林高等学校 (3回目)	8

(3) カルーナコラボプログラム

実施日	プログラム名	参加人数
4/9 (土)	自己紹介	10
5/14 (土)	片付けについて	7
6/11 (土)	癒やされるもの	7
7/9 (土)	元気を出す方法、気分が上がりやりがいを感じるもの	8
9/10 (土)	自分の長所・短所	4
10/8 (土)	怒り・アンガーマネジメント①	10
11/19 (土)	怒り・アンガーマネジメント②	7
1/21 (土)	NPO フラット「ユース保健室」	14



Rise-up リーダーシップワークショップ

■Yここ Kitchen

カルーナを退所した人の多くは一人暮らしを始めるが、簡単に自立できるわけではない。引き続き支援が必要となる場合もあり、アフターケアを充実させることが数年来の課題となっていた。課題解決の一端として、だれでも自由に利用できる居場所「Yここ Kitchen」を立ち上げた。2カ月間の試験期間を経て6月より毎週4回15時から20時までサマリア館のかふえスペースを解放し、若者の居場所と夕食の提供を開始した。WAM（社会福祉医療機構）の助成金により、困窮している人へ夕食の無償提供やスタッフの増員が可能となった。食材の寄付や調理などのボランティアにも支えられている。

希望者にはスタッフが個別相談を行い、YWCAで活動するユースメンバーと定期的にオンラインで交流するなど、参加者がエンパワーされる企画も実施している。開始当初はカルーナの退所者数名が参加していたが、大文字送り火鑑賞やハロウィンなどのイベントを実施するうちに、退所者の友人や就労支援に参加している若者など外部からの参加者も増加した。ふらりと立ち寄って友人やスタッフとおしゃべりし、夕食も食べられる、安心して過ごせる居場所・セーフスペースとして活用されている。

「Yここ Kitchen」は若者だけの居場所にとどまらず、サラームに居住する高齢者や京都YWCAが支援している多文化ルーツの子どもたちに夕食を提供（一部有料）し好評を得ている。Yここ Kitchenを軸にして、多世代多文化ふれあいコミュニティが実現されつつある。

2023年度はサマリア館を補修してハード面を整えると共に、カウンセリングやパソコン教室などのソフト面も充実させて、生きづらさを抱えた女性のエンパワメントにさらに注力していく。

(敬称略)

Yここ Kitchen	毎週月・水・木・土	Yここ Kitchen 開室	三上彩、古川由布子 御前麻里、山本佳奈	延べ 1144
	月1回	ユース委員会コラボ企画	「フラットユース保健 室」ほか	延べ 53
	7~10月12月各1回	グループカウンセリング	竹之下雅代(ウイメンズ カウンセリング京都)	延べ 28
	8/16	大文字鑑賞会		19
	10/29	ハロウィン		16
	12/24	クリスマス		10
	1/4	餅つき		11

Yここ Kitchen *4月全4回 5月週3回

⑤シニア女性とともに

京都 YWCA が提供している高齢女性のための住宅（サービス付き高齢者向け住宅）は、高齢女性が、さまざまな世代や文化的背景を持つ人々と日常的に交流できる、京都 YWCA ならではの場をつくることを目指している。

2022 年度も毎週月曜日、京都 YWCA うららかふえで（その後はサラームの共同の居間で）「ちょっとおしゃべり会」という、入居者が自由に参加し過ごせる時間を設けた。その後入居者が中心になった誕生日会やクリスマス会が行われるようになり、ボランティア会員がそれに協力してケーキをつくり、定例会となってきた。

ふれあいの「居場所」事業部委員会の下にあるグループによる体操教室「いきいきタイム」や、会員のグループ活動である「聖書を読む会」、「エコ・ド・Y」（合唱サークル）、会員有志による「ちくちくかふえ」（手仕事とおしゃべりの会）、「書道教室」に継続して参加されている方もいる。また京都 YWCA が 100 周年を迎えるプログラムとして、「京都 YWCA100 年の歴史を知る」プログラムを数回開催したが、毎回関心をもって数名が参加した。

週 4 回開く若者就労支援事業の一環である「Y ここ Kitchen」では入居者には低価格で夕食が提供されており、大変喜ばれている。

実施日	プログラム名	講師（ゲスト）名前	参加者人数
4/16（土）	成年後見制度勉強会	（公社）成年後見センター・リーガルサポート 京都支部	15（入居者 5、会員 8、職員 2）
7/9（土）	ネイルとハンドマッサージ	福祉ネイル ガンチー	9（入居者 3、家族 3、会員 1、職員 1、カーナより 1）
10/1（土）	「市電が走っていた頃の京都の風景」の写真を楽しむ会	岩崎三之利さん	15（入居者 5、家族 5、会員 4、職員 1）



写真を楽しむ会「市電が走っていた頃の京都の風景」



ネイルとハンドマッサージ

(3) 外国籍市民のエンパワメント事業

①多言語相談事業「APT(Asian People Together)」

月曜、木曜の週に2回の電話相談事業を今年度も続け、相談者の求めに応じて通訳派遣、同行、訪問などを行い、相談者に寄り添った活動を心がけた。

出産を伴うケースもあり、入院や入院後の衣料やベビー用品の準備、配達を含む支援を行った。

京都市の子ども若者はぐくみ局からの通訳依頼にも対応し、乳幼児検診での通訳を派遣した。

月例のミーティングではそれぞれのケースを共有し、より良いサポートができるように話し合いを続けた。

私たちの活動を広く知ってもらうために、年に3回のニュースレターを発行した。

また、通訳研修や相談者研修などにも積極的に参加し、自分たちのスキルを磨くことにも努力をした。

■相談件数 ・多言語相談件数（延べ）

新規相談件数 71 件 継続相談件数：1244 件、（相談対応回数 電話 1311 件、メール 208 件、来所 110 件、同行 115 件、訪問 55、FAX17、手紙 15、Messenger1581）、通訳(翻訳)派遣件数：250

■活動記録（下表の*は Web 会議）

実施日	プログラム名	講師（ゲスト）名前	参加人数
4/16、5/21、6/18、 7/16、9/17、10/15、 11/19、12/17、1/21、 2/18、3/18	APT 全体ミーティング・ケース協議*		
5/21、7/16、9/17、 11/19、1/21、3/18	京都 YWCA 多文化共生委員会会議*		
6/23	京都母子保健通訳派遣事業に関する会議		
9/12	配偶者等からの暴力に関するネットワーク京都会議（代表者会議）		
6/11	特定非営利活動法人 移住者と連帯するネットワーク 全国ワークショップ 2022		
6/12	特定非営利活動法人 移住者と連帯するネットワーク 第 8 回通常総会		
6/26、7/10、7/17	国立女性教育会館「女性関連施設相談員・相談事業担当者研修」*	加藤伊都子、松元ちえ、 松本和子、甲木京子、 河野和代、執行照子、	4 (6/26) 6 (7/10)

		合田恵、村瀬智子、 新堀由美子、 仁科あゆ美、川端千尋	
6/18、7/2、30、8/6、 9/11	RINK 2022 年度連続講座* 通訳者・相談員スキルアップ講座 「基礎知識・家族編」	木村雄二	5 (6/18) 4 (7/2)
9/23	医療通訳者研修	庵原典子	16
2/26	京都府家庭総合センター DV 被害者支援専門研修		5
3/18	研修「フィリピンという文化と人々— 南北問題を手掛かりに—」	梁瀬仁志	15
3/21	ウトロ平和祈念館見学	金秀煥 (キムスファン)	25

②にほんご学習支援事業「洛楽」

クラスは2～8名の少人数制で、入門から上級までの4つのレベルに分けたクラス構成で、週5日実施した。現在、講師は16名で16クラスを分担し、20カ国以上の国と地域から約60名が受講している。今年度はコロナ禍も収まりつつあり、オンラインやハイブリッド形式の授業を取り入れながらも、ほぼ対面での授業を行った。

子育て中の受講生のための保育サポートも3年ぶりに復活した。安心してクラスを受講してもらえるように受け入れ体制を整え、17回実施した。

定例ミーティングではクラス状況の共有をはかり、講師同士がコミュニケーションをとることに力を入れた。また、京都府内日本語教室のネットワークである「京都にほんごRings」に継続加盟し、協働して洛楽の紹介動画を作成した。京都YWCAと京都にほんごRingsのホームページに掲載中である。

●教室数：延べ577（対面532、Zoom24、ハイブリッド21）

受講生数：延べ1338

学習支援者数：延べ571 保育サポート：延べ17回

「洛楽」対面授業の風景



■「活動項目」

実施日	プログラム内容	ゲスト	参加人数
5/28	京都 YWCA にほんご教室「洛楽」の成り立ち	池上信子、 宮武美知子	12
10/15	プチマルシェ（物品販売・パネル展示）		—
10/17～10/29	パネル展示@うららかふえ		—
4/10、6/26、 10/2、12/18	京都府内日本語教室のネットワーク「京都にほんご Rings」 定例会参加		4

③留学生支援「すけっと」

コロナの状況が少し落ち着き、政府の外国人受け入れもだいぶ緩和され、あじさい寮に入寮する留学生が増えた。「すけっと」と名付けた留学生を支援するボランティアにより留学生の送別会や歓迎交流会が計画され、相互のコミュニケーションが図られた。

実施日	プログラム内容	参加人数
8/1	送別会	留学生 3、すけっと 3、多文化共生委員 2
9/24	オリエンテーション・歓迎交流会	留学生 13、すけっと 4
3/29	京都御所（御苑）散策	留学生 7、すけっと 2



「すけっと」主催の送別会



「すけっと」と共に京都御所散策

(4) 多世代・多文化による交流と協働の「ふれあいの居場所」事業を通じたボランティア活動

① 平和・環境活動

2022 年度は昨年引き続き新型コロナウイルス感染の蔓延が3年目となった。制限が緩和されたとはいえ感染は収束せず、ハイブリッドやオンラインで展開する活動を昨年同様に行った。福島の子どものための保養プログラムは計画を持っているが、実施は延期となっている。防災関係の活動として計画したワンデイキャンプは実施できなかった。

ウクライナでの戦争が続き、軍事費増強や原発再稼働の動きを背景に平和環境の取り組みが一層求められている中、8月には沖縄本土復帰50周年を迎え、沖縄YWCAの協力を得て世代の違う3人の沖縄の方をゲストに迎えてお話を開催し、それぞれの思いや意見を共有し課題を自身に引きつけて考える会となった。

11月には「あきまつり」に環境防災に関する親子向けの展示として、防災ワンポイント紹介を防災士太田興さんの参加・協力を得て行った。また、環境にやさしい食品用ラップであるみつろうラップを紹介し、材料を展示した。

平和に関する活動では2.11集会を多文化共生委員会と協力し、高賛侑(コウチャニュー)監督のドキュメンタリー映画「ワタシタチハニンゲンダ」上映を室町教会の協力を得て開催した。

2.11集会のテーマに関連して、3月21日に多文化共生委員会が主催したウトロ平和祈念館の訪問ツアーに、平和・環境活動委員会の全員が参加した。

福島プロジェクトの取り組みとして、福島の物品販売などをし、活動につなげてゆくことを計画したが、福島産リンゴは時期が合わず地域で調達してリンゴジャムを作成した。次年度は時期を見て計画することにした。

*プログラム

平和のプログラム企画「復帰」50年 沖縄・女性たちの声

スピーカー：沖縄YWCA 会員

宇佐美節子さん 中里和花さん 玉城郁恵さん

・日時：8月7日(日) 15:00~17:00

会場・来場(20名定員)とオンラインのハイブリッド型

・参加者は会場7名、オンライン17名の合計24名。

別途、申し込み後参加できなかった2名と途中参加になった方など数名に

映像の限定公開をした。予約制だったが当日飛び込みの参加者が2名あった。

あきまつり 11月6日(日)

「あきまつり」の来場者を対象に防災のコーナーを設置。パネル展示、解説。

みつろうラップ展示。

②ふれあいの居場所事業

ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」では、ボランティアチームが週3回、外部団体「京都府更生保護女性連盟」が月2回ランチ作りを行う体制で、火曜日から土曜日まで週5日の運営を続けた。若者就労支援として、自立援助ホーム「カルーナ」の入居者・退所者、学習支援などを受けている多文化ルーツの若者や、外部団体からの紹介による若者もほぼ毎回、ランチ提供の作業に参加した。

コロナ禍の中、外部からのランチ予約は受け付けしたが、2022年度もコロナの感染防止対策をとり、座席数を減らし、テーブルの亚克力板の設置を続けた。

京都YWCAの伝統のお菓子やマーマレードを定期的に作成、販売し、また京都YWCAのさまざまなプログラム（あきまつりなど）でも販売した。本館にあるキッチンの有効活用のため、また若者就労支援の一環として、月1回のお惣菜作りが始動した。

手仕事やおしゃべりを楽しむ「ちくちくかふえ」、介護予防を目的に椅子に座ってストレッチや体操などを行うプログラム「いきいきタイム」、多文化ルーツの人を含め会館に集う人を対象におしゃべりする「Chatting Café」に加えて、和服のリフォームを楽しむ「きものリフォーム」も定期的に開かれた。

4月から自立援助ホーム「カルーナ」による「YここKitchen」が始まり、かふえボランティアのメンバーが年度を通して協力した。

京都府のLコネクト（京都府つながる・学ぶ・働く支援センター）の紹介により、「うららかふえ」で働いたり、京都YWCAで軽作業をする若者が増えた。12月初めにLコネクトのホームページで、京都YWCAの取材記事が公開された。

<https://lconnect.jp/article/kyoto-ywca/>

また、京都市の「生き方探求・チャレンジ体験推進事業」で2人の中学生を受け入れ、数日間ずつ、一緒にランチをつくるなどの作業を行った。



いきいきタイム（フレイル予防）



ある日のランチ

■主催プログラム

実施期間	プログラム名（実施日）	講師	参加者人数（延べ）
2022.4～2023.3	いきいきタイム 第3水曜 4/20、5/18、6/15、7/20、8/3、9/21、10/19、 11/16、12/21、2/15、3/15	京都市健康作りサポーター（ジョイ健活上京）/ 上京区地域介護予防推進センター指導員	60
2022.4～2023.3	ちくちくかふえ 第2・4水曜 4/13・27、5/11・25、6/8・22、7/13・27、 9/14・28、10/12・26、11/9・30、12/14、 1/11・25、2/8・22、3/8・22		122
2022.4～2023.3	きものリフォーム 第3火曜 4/19、5/17、6/21、9/27、10/18、11/15、 2/21		45
2022.4～2023.3	Chatting Café 第1土曜 4/2、5/7、6/4、7/2、8/6、9/3、10/1、 11/5、2/4	（展示会：9/3～17 ごうどさちこ“くらしのう つわ”）	52
2022.4～2023.3	お菓子チーム 第2火曜 6/14、7/12、9/13、10/11、11/2、11/18、 12/1、12/13、2/7、3/1、3/7	（プチ・マルシェ、あきまつり、クリスマス集会、YWCAフェスタ、ピーター・バラカン DJ ライブ、定期会員集会の各行事で販売）	54

■うららかふえ営業

営業日 合計	カフェチーム担当	他委員会担当	委託	喫茶日（ランチなし）
227日	88日	68日	33日	38日

参加者

ボランティア数（延べ）	若者就労支援推進事業参加者（延べ）	ランチ数（延べ）
567	394	3421食

Ⅱ. 保育園事業

開園から3年目を迎え、当初の41名から57名（3月末）と利用園児が増えた。特に4、5歳児が増え、幼児の園児同士の関係が広がり深まった。幼児は異年齢保育を取り入れている。年齢が上の園児はいたわりの心が芽生え、下の園児は憧れをもって生活を共にすることができている。乳児に対しては各年齢の育ちに応じて一人ひとりの成長に配慮した保育を行い、保育者との愛着関係を築いている。全体として京都市の配置基準より手厚い人員配置をとることで、安全確保や、子どもたち一人ひとりに保育者が向き合える保育を行っている。

設備では網戸改修の他、園庭の築山を整備し、子どもたちはこれまで以上にのびのびと遊ぶことが出来るようになった。

新型コロナウイルスのため、数回にわたり一部閉園を余儀なくされたが、7月にはクラス懇談会、10月には幼児の保育参観、2月には個別懇談を行い、保育園と家庭での子どもたちの生活の様子について共有するとともに、保育園が大切にしている保育について保護者に理解いただく機会となった。

保育園担当職員や保育者が運営を担うだけでなく、会員で構成されている各委員会から運営の協力を得ている。保育園事業部委員会では京都YWCAが長年行ってきた事業と保育事業の融合についてや、円滑な保育園運営についてなどの話し合いを進めるほか、親・子育て支援活動委員会の協力の下ではさまざまな地域向け子育て支援プログラムを、多文化共生委員会の協力の下では多文化理解プログラムを行った。

在園児やその保護者だけでなく、卒園児や保護者にとって、地域の子育て中の家庭にとって、保育園がいつでも安心できる場所であり続けられるよう、努めていきたい。

園児数：0歳児7名、1歳児9名、2歳児11名、3歳児8名、4歳児9名、5歳児12名

職員：常勤保育士8名、栄養士2名、非常勤保育士及び保育補助16名、調理補助2名、主任、副主任、園長、事務局



御所へ散歩に



八瀬野外保育センターへデイキャンプ

2022 年度開催定例プログラム・会議

実施日	プログラム名	講師（敬称略）	対象者/人数
毎週月曜日	リズムあそび	赤尾陽子	0-2 歳児
毎週金曜日	リズムあそび	有田佳子	3-5 歳児
毎月 1 回	避難訓練		全園児
毎月第 3 水曜日	お誕生会	浅野献一 牧師	全園児
毎月 1 回土曜日	園庭開放		地域向け
随時	保育園見学・説明会		入園希望者
毎月第 1・3 木曜日	絵本の読み語り	親子ライブラリー	2-5 歳児
毎月第 3 木曜日	地域向けリズムあそび	赤尾陽子	地域向け各回 1-3 組
毎月第 3 木曜日	地域向け親子ライブラリー	親子ライブラリー	地域向け各回 1-3 組
9 月後半より隔週	えいごであそぼう	レイザ モレノ	4、5 歳児
毎週月曜日	担任昼礼		担任他
第 2 火曜日	献立会議		給食担当者他
毎月 1 回土曜日	乳児、幼児、担任全体会議		担任他
偶数月	園だより発行		保護者

2022 年度保育園行事（上記以外）

実施日	プログラム内容	講師/協力等	対象/人数
4/1	出会いを喜ぶ会(入園式)	浅野献一 牧師	新入園児と保護者
5/9, 10	救命救急講習	上京消防署	職員
6/29、2/1	園医健診	秋山祐一	全園児
6/30	歯科健診	平野富希	2-5 歳児
7/7	防犯訓練	上京警察署	職員
7 月	クラス懇談会		保護者
7/29	多文化プログラム 民族楽器ワークショップ	ロビン・ロイド	全園児
9/17	子育ておはなしかい 1	室紀子	地域および保護者 7 名
9/28, 11/30, 1/25	多文化プログラム 中国（内モンゴル）文化体験	珊瑚	3-5 歳
10/7	3-5 歳児クラス保育参観	各担任	保護者 10 名
10/21	3-5 歳児クラス保育参観	各担任	保護者 11 名
10/22	食を通じて子育てと生活を考えるおはなし会 1	笹浪泉	地域 5 名

10/28	デイキャンプ	八瀬野外保育センター	4、5歳児
10/29	食を通じて子育てと生活を考えるおはなし会2	笹浪泉	地域 6名
11/6	あきまつり	ロビン・ロイド 内藤ルミ子 枚田真紀子ほか	地域 80名
11/10	収穫を祝う会	浅野献一牧師 親子ライブラリー	全園児
11/11	収穫を祝うランチ		全園児
12/10	子育ておはなしかい2	室紀子	地域および保護者7名
12/15	クリスマス会	親子ライブラリー 浅野献一牧師	乳児
12/22	クリスマス会	浅野献一牧師	幼児
1/6-14	上京絵画展（上京総合庁舎）		1-5歳児絵画出展
2/6	卒園制作 陶芸	神門佐千子	5歳児
1/23-2/4	大阪保育福祉専門学校 実習生受入		1歳児
2/4-6	京都市保育フェスタ園児絵画 展（みやこめっせ）		1-5歳児絵画出展
2月	個別懇談		保護者
3/7、9	夏みかん収穫・マーマレード作 り見学プログラム	親・子育て支援活動委 員会、ロビーショップ 夏みかんチーム	3-5歳児
2/10	おやのたんわしつ	室紀子	地域
2/11	全職員研修 重大事故対応/多文化共生とは	岡佑里子	全職員
2/25	入園前説明会		新入園児保護者
3/25	育ちを祝う会（卒園式）	浅野献一牧師	卒園児および保護者 4歳児

所属団体：全国私立保育園連盟、京都市保育園連盟、京都市保育士会、日本キリスト教保育所同盟

Ⅲ. その他の事業

(1) サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」事業

60歳以上の女性に安心・安全な住まいと見守り、生活相談サービスを提供している。京都YWCAは、保育園児から若者、また外国籍の人々など多様な文化的背景をもつ人々が行き交う場であるが、その中にある高齢者住宅であることが「サラーム」の大きな特徴である。

2022年度は4月と5月に入居があり8室が満室となった。京都市から高齢者施設の入居者と従事者へのPCR検査の要請が引き続き年度途中まであり、毎週1回の唾液検査を続けたが、すべて陰性であったのは幸いであった。数名が介護認定を受けたり、入院する人もあったが、それぞれに公的支援や家族のサポートを受けて生活されている。

(2) その他

①広報部

年6回奇数月に機関紙を発行し、毎月半ばに京都YWCAの会員・会友などにメールニュースを発信して事業や活動を内外に知らせた。機関誌では京都YWCAの事業や活動の中で、広く知ってもらいたいプログラムや事柄を取り上げるように努めている。また、今年度もカラー版事業報告書(12ページ)を作成して、広報や募金活動に役立てた。

2023年に100周年を迎えるにあたり、100周年をアピールする持ち運びのできるバナースタンドを作成し、さまざまなプログラムに活用できるようにした。機関紙にも引き続き、毎号京都YWCA歴史シリーズ「京都YWCAの100年の歩み」を掲載した。昨年度作成した100周年記念のTシャツも継続して販売している。

広報部は100周年記念誌『古都に咲いて100年』の記念誌制作チームに参加し、原稿の編集作業を進めた。8月に記念誌を完成させる予定である。

各委員会などが行うプログラムを中心にした京都YWCAの情報はホームページ、フェイスブック、ツイッターに掲載しているが、特に今後は若者の利用が多いInstagramの活用にも力を入れることにしている。



100周年広報のためのバナースタンド

② 会館部（貸室・会館管理）

●貸室事業

コロナ感染予防対策を講じ、人数制限を実施しながら、地域の人々に各種活動の場として利用された。アメリカの旅行会社グランド・サークル・コーポレーションと契約し、8月後半より10月末まで旅行者集団を受け入れて京都YWCAを紹介する貸室事業を実施した。電気料金が大きく値上がりし、会館利用者に節電を呼びかけている。

●会館管理関係

館内には経年劣化した空調機が多く、順次取替を行っており来年度も続ける予定である。

サマリア館補修を検討して補修内容を決定した。2023年8月～9月半ばの期間に補修工事を行う予定である。サマリア館の照明のLED化工事も予定している。サマリア館は京都市の「京都を彩る建物や庭園」に選定された。

定期利用団体 27 団体 単発利用延べ 16 件

以上

